



ちょっと気になる はるかぜ学校の報告(10月~3月)

大人の修学旅行10月26日(木)

九州北部豪雨の被災に遭った日田市と青の洞門を中心に学習しました。

まだまだ復興が進んでいない所も多々あり、自然の怖さとそれに負けない人間の強い気持ちも学習できました。



◎アンケートより

- ・校区の皆さんとの交流や、被災地の現状をみて、自分ができていることを考える有意義な1日でした。
- ・「明治22年日田地方を襲った大水害から多くの命を守った」と伝えられる『むくの木』や、明治19年医学の進歩のため献体解剖を申し出た山国町(現中津市)の『山本登久さん』など、地元の方しか知らないようなことまで学習でき、勉強になりました。知らない事を正しく知ることは楽しいです。

講演会 「お酒と上手に付き合っていますか」 11月18日(土)

講師 高田 和久さん(ASKふくおか代表)

*ASK(アスク・ヒューマン・ケア)

糸島警察署 川原交通課長より、糸島市での飲酒運転の現状と目撃した時の通報制度をお話していただきました。

20年近くアルコール依存症の患者さんと接してきた看護師でもある高田さんのお話では「お酒を飲むことは悪いことではありません。適量を知って楽しく飲むことが大切」だということ学びました。



◎アンケートより

- ・パッチテストで自分の体質がお酒に強いのか弱いのか、また飲酒擬似体験ができる眼鏡をかけると周りがゆがんで見える、視野が狭くなることを体感し、飲酒運転の怖さを学びました。
- ・「自分は大丈夫。近いからよかろう。見つからないよう裏道で。」など、自分勝手な判断や行動は被害者家族だけでなく、加害者家族、周りのみんなを巻き込むことになる…。など心に重く響きました。

人権映画祭 「校庭に東風(こち)吹いて」12月9日(土)



東風小学校児童による、劇中歌「世界中のこども達が」の合唱で幕を開けた人権映画祭。

視覚障がい者も楽しめる副音声付の映画で、場面緘黙症(ばめんかんもくしょう)という難しいテーマも含まれていましたが、わかりやすく、ストーリーも感動的なものでした。

フィールドワーク 「被災半年の朝倉市に学ぶ」 1月27日(土)

一瞬にして大切な家族の命はもちろん、営々と築いてきた財産さえも全て無くしてしまう。

決して他人事ではない、もしわが身に起きたらと考えると…。今は、いつ・どこで何が起こっても何の不思議もない時代を私たちは生きています。

道の駅「三連水車の里あさくら」(上の写真)など市内のいたる所に積み上げられたままの大量の土砂や流木の山が、7月5日に朝倉市で起きた集中豪雨の被害の大きさを物語っており、私たちにとって、とても身近でショックな出来事でした。

「子どもは元気」そんな当たり前の日常が、避難所生活になると奪われてしまう。避難所の中で夜泣きする乳児を抱え、途方にくれる母親たちに差し伸べられた全国からの支援。大きな声を出して遊んだり、泣いても気にしなくて良い環境を与えられた子どもと母親たち。

全国初の「母子支援センターきずな」では、閉院した産婦人科を拠点に24時間体制で被災した母子に寄り添う活動をされた方々の話を聞き、心から感動と勇気を覚えました。(下の写真)

困難に立ち向かい、今なお復興に尽力されているたちの姿に多くの事を学んだ1日でした。



(泊一行政区推進委員 山下 和子)

いのちの授業 「心に響く音色 筑前琵琶」 3月11日(日)

講師 寺田 蝶美さん(筑前琵琶保存会師範)

3月のはるかぜ学校を「命の授業」と位置付け、東日本大震災犠牲者の追悼と復興支援を企画しました。

校区有志の方による踊りや寺田 蝶美さんによる筑前琵琶の歴史説明・郷土ゆかりの曲などの演奏で『命』の大切さについて学習しました。

ご参加の皆さまより 17,500 円の義援金が集まりましたので、被災地へ送らせていただきます。

ありがとうございました。



アンケートより

- ・素晴らしい琵琶の演奏に心と魂を揺さぶられました。
- ・琵琶は難しいと思っていましたが、身近なテーマも演奏され素晴らしい時間でした。
- ・初めて琵琶の音を聴きました。優しく迫力ある音に感動いたしました。

